

経済の「本質」伝えたい

国際派のエコノミストだ。「自分の頭で考えて行動し、自らの言葉で説明し、責任を

県立大学の挑戦

「新任教員」紹介⑤

PR

負う」。世界のどこにいても通用する人材像を挙げる。日銀出身。調査研究部門

経営学部 国際経営学科



【プロフィール】

東京大経済学部卒、ロンドン大学院修士課程修了。日銀での勤務のほか、東京外国語大や青山学院大で客員教授などを歴任。担当科目は「国際金融論」。神奈川県出身

いしだ かずひこ
石田 和彦 教授 (59)

が長く、経済協力開発機構（OECD、本部パリ）や日本経済研究センターにも出向した。日本国内、そして海外景気の分析と予測を通じて、1980年代以降の経済をつぶさに見てきた。国内企業を対象にした統計「経済センサス」の創設メンバーでもある。

海外ビジネス研修。県立大には、日系企業などで就業体験をするカリキュラムがある。「こうした取り組みは学生の視野を広げる。例えば、金融の世界では米ニューヨークでの出来事がただちに本県にも影響する。どこにいても同じ原理が働くことが真の意味でのグローバルです」。自身の経験を基に、「地方でも中央でも経済の本質は変わらない。世界とながっている」というマイノリティの大切さを強調する。

いま、地方で教壇に立つ。「学生と話し、議論することが楽しい。気付かされることも多い」と笑顔を見せる。【随時掲載】

7月17日(日)18日(月)祝
オープンキャンパス
0956(47)5856